



薬の伝言板 点眼薬の使い方

No. 311 2023年10月

丸子中央病院 薬局

点眼薬（目薬）は、目の病気を治療したり、目の疲れ・かゆみ等の症状を和らげるために、直接目に使用のお薬です。目薬は無菌の状態のお薬であり、正しく使うことで目の諸症状に対して治療効果を発揮しますが、使い方を間違えると目に雑菌が入り、かえって目の症状を悪化させる恐れがあります。目は体の中でも非常に繊細な部分であるため、目の治療において正しく目薬を使用することが非常に重要です。

1. 点眼薬の使用法（基本編）

① 使用前に、よく手洗いをしましょう



② 使用する点眼薬について、以下を確認しましょう

- ・使用する薬が点眼薬であるかどうか（水虫治療薬、下剤などは点眼薬の容器とよく似ているものがあります）
- ・使用期限が過ぎていないか、浮遊物や濁り、変色がないかどうか

③ 点眼方法

- 1) 下まぶたを軽く下にひき、1滴を確実に目の中に点眼します。
この時、容器の先がまぶたやまつ毛、目に触れないようにします。
（触れると、目が傷ついたり、目薬が汚染する原因となります）
- 2) 点眼した後は、しばらく（1～5分）目を軽く閉じます。
（まばたきを繰り返したり、力強く目をつむると薬液が目から溢れ出てしまい、十分に効果が発揮されないことがあります）
- 3) 目から溢れた薬液は、清潔なガーゼやティッシュで拭き取ります。



④ その他の点眼方法

- ・げんこつ法
下まぶたに、げんこつを当てて引き下げ、げんこつの上に目薬を持った手を乗せて固定し、点眼する方法もあります。



⑤ 間違った点眼方法

- ・目じりや目がしらに容器の先をつけて点眼すると、容器の中に目ヤニや涙液が混入し、点眼薬が汚染される恐れがあります。

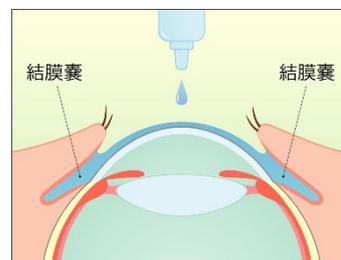
2. 点眼薬の使用法（応用編）

① 点眼量について

点眼薬の1滴量が30~50 μ Lであるのに対して、結膜嚢（点眼薬が溜まる部分）に入るのは約30 μ Lと言われています。

結膜嚢に入りきらない点眼薬は目から溢れ、鼻涙管を介して全身へ行き、副作用の原因となることがあります。

したがって、**点眼量は1滴で十分**です。



② 点眼順序について

（注：あくまで一例です。基本的には医師・薬剤師の説明に従って実施してください）

・ **主剤（最も効果を期待するもの）を最後に点眼します。**

（最初に点眼した薬の方が結膜嚢からの排出が大きいため）

・ **水溶性点眼剤→懸濁性点眼剤→眼軟膏の順序で点眼します。**

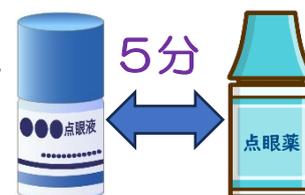
（懸濁性点眼剤は水に溶けにくく、眼軟膏は水溶性点眼薬をはじくため）

例：レボフロキサシン(水溶性)→フルオロメトロン(懸濁性)→オフロキサシン(眼軟膏)

③ 点眼間隔について

・ 2剤以上の点眼薬を使う場合は点眼間隔を**5分以上**空けましょう。

・ 懸濁性点眼薬の後は10分以上間隔を空けましょう。



④ コンタクトレンズについて

・ 点眼薬は、コンタクトレンズを着けたままでは使えないものがほとんどです。

（塩化ベンザルコニウム(防腐剤)がコンタクトレンズに付着し、角膜障害の原因となる）

当院院内採用点眼薬一覧（赤字は塩化ベンザルコニウムを含む）

水溶性点眼薬	懸濁性点眼薬	眼軟膏
レボフロキサシン ヒアルロン酸 Na プロムフェナク タフルプロスト など	フルオロメトロン ピレノキシシシ など	オフロキサシン イリシマイツ・リシイ アシクロピル など



点眼薬には様々な種類があり、製剤毎に使用上の注意点等が異なります。ご不明な点がありましたら遠慮なく薬剤師に尋ねてみてください